

部門別感染対策：

臨床検査部門

内容

1. 基本原則	1
2. ゾーニングおよび共通事項	1
3. 各検査室における感染対策予防策	2
3-1. 細菌検査室	2
3-2. 病理検査室	2
3-3. 臨床生理検査室	2

NS はナーシングスキルを参照してください。

 または **Ctrl** + **F** でワード検索ができます。

1. 基本原則

大きく、検体を扱う検査と、患者と接する検査（生理検査、血液検査の一部、など）に分かれる。医療従事者の職業感染や、職員の手指や機器、器具などを介したスタッフ間、患者間、スタッフ-患者間の交差感染を防止するため、標準予防対策を遵守する必要がある。

2. ゾーニングおよび共通事項

1) 各検査室内は汚染区域（赤）、準汚染区域（黄）、清潔区域（青）にゾーニングされている。作業を行う際は検体の飛沫などに注意すべく、必要な個人防護具（以下、PPE）を装着する。

区域	汚染区域（赤）	準汚染区域（黄）	清潔区域（青）
作業内容	検体を扱う作業を行う区域	汚染区域の中でも事務作業の面が強い区域および通路	汚染・準汚染区域以外の区域
必要なPPE	（検体・機材を扱う場合*） ・アイシールド/ゴーグル ・サージカルマスク ・グローブ ・エプロン	（検体・機材を扱う場合*） ・アイシールド/ゴーグル ・サージカルマスク ・グローブ ・エプロン	特になし

（*）：必要に応じ、サージカルキャップ、N95 マスク、長袖ガウンなどの着用も考慮する。

- 2) すべての検査部スタッフは「病院感染対策マニュアル」を遵守し業務を行う。
- 3) 検査室内には感染性廃棄物容器を設置し、使用後の PPE などを含む感染性医療廃棄物は「病院感染対策マニュアル」内の「14.感染性廃棄物の管理」に従い適切に廃棄処理する。
- 4) 作業後、清潔区域へ出る際は、PPE を脱いだ後、流水下での手洗いやアルコール手指消毒剤を用いた手指衛生を徹底する。
- 5) 汚染区域へ入室する業者、研修者、見学者などの来訪者においても、必要に応じ適切な予防衣の着用を義務づける。
- 6) 針刺しや粘膜曝露など感染の可能性のある事故が発生した場合は、「病院感染対策マニュアル」内の「08.針刺し・切創・皮膚粘膜暴露時の対応と防止対策」に従い対処する。
- 7) 作業環境は環境清拭用クロスでこまめに消毒し、清潔を保つ。

3. 各検査室における感染対策予防策

3-1. 細菌検査室

- 1) 細菌検査室に入室する際には、検体や機材の取り扱いの有無に関わらず、サージカルマスク、グローブ、長袖ガウンを着用する。これは来訪者にも適用する。
- 2) 無菌室に移動する際には、新しいPPEに交換する。
- 3) 呼吸器材料や胸水などの処理、迅速抗原検査を行う場合には安全キャビネット内で行う。
- 4) 結核菌の薬剤感受性検査など、結核菌株を直接操作する場合にはN95マスクを着用する。

3-2. 病理検査室

- 1) 検体は以下の様に処理を行う。結核など、感染力の高い感染症が疑われる検体は、N95マスクを装着して処理を行う。処理後は、いずれも密閉容器にて保管する。

検体の種類	検体の処理方法
組織診検体	● 生検体(ホルマリン未固定) :安全キャビネットにて速やかに固定作業を行う。 ● ホルマリン固定後の検体 :原則、感染性は限りなく低いものとして扱う。 ただし、切出に際しては組織内部の固定が不完全である可能性があるため、必要な PPE を装着して行う。
細胞診検体	● 安全キャビネットを使用する (アルコール固定後の検体は感染源となる可能性は低い)

2) 病理解剖について

- (1) 病理解剖中、解剖室に出入りするスタッフは N95 マスク、エプロン、シューカバーを装着する。
- (2) 解剖を行う術者、介助者はアイシールド/ゴーグル、グローブ(二重に装着)、N95 マスク、長袖ガウン、サージカルキャップを装着する。
- (3) 結核など、感染力の高い感染症が疑われる症例は、摘出する臓器を必要最小限とし、飛散を防ぐ操作を行う。また、原則として臓器の入割は固定後に行う。
- (4) 使用した器材は、原則、感染性廃棄物として廃棄する。再利用可能な器材については洗浄を実施し、特定の器材においては滅菌も行う。
- (5) 環境清掃は、(血液・体液汚染については予備洗浄スプレーを用いた後)除菌洗浄剤(ハイプロックスアクセルなど)を用いて行う。

3-3. 臨床生理検査室

- ・次ページ【表】に従って感染対策を行う。必要に応じ PPE の追加着用も考慮する。
- ・検査後は、1 患者ごとに適切な環境清拭クロスで使用機材などを清拭する。
- ・感染経路別予防策を講じる必要がある患者は原則、治癒後に実施するが、検査が必要な場合はその日の最後に実施する。その場合、出棟前には臨床生理検査室への事前連絡が必要である。

【表】

		PPE				MRSA、ESBL、 アデノウイルス（結膜）、 ノロウイルスなど	結核、水痘、麻疹、 インフルエンザ、 SARS-CoV-2 など
		グローブ	サージカル マスク	N95 マスク	ゴーグル/ フェイス シールド		
肺機能 検査室 (陰圧)	肺機能検査	●		●	●		原則、治癒後に実施
	NO、UBIT	●		●	●	原則、治癒後に実施	※排菌している結核患者は 実施不可
心電図室	心電図（CVRR、 マスター負荷含む）		●			必要な対策をしながら 随時検査実施 ※ノロウイルス患者の 検査後は 次亜塩酸ナトリウムを 用いて清拭する	ポーター対応で実施
	ホルター心電図		●				
	トレッドミル 負荷心電図		●				
	ABI・SPP		●				
	STM		●				
超音波 検査室	エコー検査		●				原則、治癒後に実施
11番・ 12番	脳波		●	過呼吸 賦活時は●	過呼吸 賦活時は●		
10番	誘発電位		●				
9番	神経伝導速度		●				
出棟	AABR		●				